



## 6月議会 総務委員会 松原のりかず討論

企画費の交通政策にある「トランジットモール推進事業」はすでに数回の実験を経過し、岐阜市内に恒常的にトランジットモールを導入することは困難と思われる。実現困難な企画を継続する根拠が理解出来ない。

中心市街地の賑わい創出が目的とされるなら、トランジットモールと分離し、新たに商店街とイベント対策を行なうべきである。目的を一つにした方が予算は効率的に配分され、目的と効果が合致した企画となる。

交通政策の「公共交通自動運転技術活用調査」は本来、国が全額予算を付け、自治体に要請する実験と調査である。国が予算を付けるべきであり、地方都市が苦しい財源の中で行なう事業ではない。国に予算を出してもらおう努力が、第一義的に行われるべきである。

自動運転はハードが完全に確立されてから、地方都市がソフトの為の調査活動をはじめても十分に合う。「日本で一番乗りの都市」の誘惑に答える必要はない。「日本で始めて」の呼び声の、水道部のりんプラントは国の表彰を受けたが、表彰後の実態は年間500万円の収益を上げるのに、1億円の管理費を消費し続けている。新事業への税金投入には慎重であるべきである。

市民の日常生活を支えるためには、現在、稼働しているコミュニティーバス事業に予算増額が優先されるべきである。

行政管理費の職員表彰制度は、企業内労務管理としては、古典的な手法である。40年前の労務管理の本にも書いてある。また、クレジットカードのようなポイント加算制度は、社会貢献活動とは相容れない。

消防団、水防団の活動は尊敬すべき大切な仕事であり、その強化のために職員や職員OBが積極的に参加される事は素晴らしい活動である。現に多くの方々に参加されている。この参加者は表彰される事を名誉と受け止められても、表彰されるのが目的で参加されてはいない。意義と必要性を感じ、地域市民の連携の中で参加をされている。

職員の評価は本来業務のプロの仕事のなかで評価されるべきである。社会貢献活動、ボランティア活動への参加は、参加する本人だけでなく、送り出す職員同僚の支えも在って継続できている。市役所職員の個人表彰はそぐわない。

(うら面へつづく)

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

(おもて面からのつづき)

すでに、消防団、水防団には表彰制度があり、市役所職員だけ二重表彰制度をつくる事は、民間団員との間に格差をつくることになる。

労務管理と自治体政策を混同してはいけない。消防団、水防団の強化を表彰制度で補強目的なら、民間団体、中小零細企業の中で、長く協力頂いている会社、個人を更に多く表彰すること、活動を補助することが優先されるべきである。

自主研究活動支援、資格等取得支援、の予算が出されている。民間企業では表彰制度と合わせて、個人への資格取得支援などが、労務管理の一貫として存在するが、その財源は私企業（わたくし）の企業活動でえられた収益から出されている。

市役所の場合、財源は全て税金である。税金の支出がされれば「自主」ではなくなる。「自主」を尊重したいなら、税金の支援はそぐわない。支援を要するなら給料表の改善で対応すべきものである。支援制度は市民の評価には耐えない。

自治体の政策としては市役所組織の中ではなく、零細企業への同趣旨の補助事業に予算を配分すべきである。

以上、無所属クラブの見解となりました。

したがって、第73号 議案には 反対いたします。



松原のりかず

☎058-253-2500